



シルバーだより

No. 304

平成 27 年 10 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— 学園祭を成功させましょう —

学 長 望月 公子

記録的な猛暑に引き続き延々と降り続いた台風がらみの秋雨前線がやっと終わりました。この異常気象は、今年に限ったものではなく毎年似たような災害を引き起こしそうで心配ですね。しかし、世界有数の堤防技術を持つ日本ですからしっかりとした対策が取られることを期待すると同時に、現地の復旧が 1 日も早く完了することを願います。

10 月 23・24・25 日は「ムーブ町屋」で学園祭が行われます。昨年に引き続き 25 教室、約 800 名が出品する規模です。荒川シルバー大学前期の学習成果が展示されますので家族・友人にも声をかけ学園祭を盛り上げてください。内容は、伝統文化、芸術、家政、社会行動、映像など多岐にわたっており幅広く鑑賞の楽しみを味わうことができます。



昨年度は、どの教室の作品も生き生きと華やかで個性が出ていることが印象的でした。しっかりと生きてきた経験に支えられ、自信に裏打ちされた強さを感じさせる作品が多く、「色の組み合わせ方が個性的ですね！！」「私にも創れるかしら？」「来年は、この教室に申し込むわ」と会話が弾んでいました。

参加される皆さんには、今年も教科の特性を基に個性とエネルギーに満ちた作品が展示されることを楽しみにしています。

シルバー大学では、新しい試みとして「ジョギング・ウォーキングの集い」を 11 月 7 日（土）に計画しました。後日計画書を事務室前に掲出しますので関心のある学生は、申し込んでください。

9 月 30 日には、合同講義音楽鑑賞会がありドイツから帰国した荒川区出身の声楽家、兼杉三枝子さんを迎え楽しい一時を過ごしました。

また、9 月 2 日には、台湾の大学院生や生涯学習研究者約 40 名が、音楽教室・書道（金曜）教室の授業参観に来られました。交流風景や交流作品などが学園祭に紹介されることと思いますので楽しみにしててください。

《 塚田先生を偲んで 》

「みなさん今日はー」教室を始める時の柔らかいあの声が聞けなくなりました。私達の塚田先生が8月2日に亡くなられたのです。二学期に入る前のことで、私達はまさかという思いで受け入れることができませんでした。私達の教室は現在は27名ですが、過去の在籍者は相当な学生の人数だった。なのになぜ一番最初に先生が逝ってしまったのでしょうか。せめて少しの間だけでもお別れの、そしてお礼の挨拶がしたかったという思いが学生全員にあるのです。

誰とでも仲良くなれる塚田先生は、私達の友達みたいでした。教室では常に私達の自主性を重んじた授業に徹して下さっていました。《日本の話芸》という以上、落語、講談、浪曲と沢山の芸能をマスターするために大変なご苦労をされて調べ、講義の度にキャスターいっぱい資料を積んで、埼玉の遠くから学校まで通ってきて下さいました。先生は日本の芸能は何でも好きですが、とりわけ浪曲と相撲が大好きでした。今年度の合同講義は「天中軒轟師」を招いての浪曲会に全力を上げて取り組まれ大成功をおさめました。あの世に行くのにこんな手土産を持っていこうと思っていたのでしょうか。忘年会などで先生には思いっきりうなづいて頂きたかったです。それはもちろん、「一本刀土俵入り」ですね。『日本の話芸教室だより』という教科書を先生は毎回欠かさず作って、それをもとに講義を行っていました。最後となりました6月16日の教科書では、自身の代行のことも書いてありました。私達は気にもとめなかったのですが、今それを見ると先生には予感があったのでしょうか…。

9月1日の二学期の最初の授業には、先生の奥様が来て下さいました。ご丁寧な挨拶が悲しみを増して私達の心に届きました。また理事長諸先生方も言葉をかけて下さいました。とまどって何もできない私達を助け、まとめてくださったこと感謝申し上げます。その話の中でこれからのこともふれていましたが、塚田先生は毎回新年度の最初に年間の講義スケジュールを立て、示して下さいました。今年度もそれに準じて進んでいきます。私達の中には先生の後継者になり得る人もいますが、諸先生方の協力を得て、何よりも『日本の話芸教室』の灯を消さぬようみんなで手を組んでやってまいります。それが先生へのお礼と供養になればと一同思っております。

さて、私達の頭の中の落語国にはこんな世界があります。それは『粗忽長屋』です。その有名なオチを先生に捧げます。長屋の熊さんが死体を抱いてつぶやくセリフです。「抱かれているのは確かに俺なんだが、抱いているのはいったい誰なんだろう…？」人間の命題といわれるむつかしいことですが、私達の先生への思いが伝わるのではないのでしょうか。

ご冥福をお祈り申しあげます。合掌 (日本の話芸教室 学生一同)

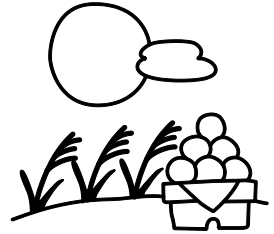
《 朗読教室 》

朗読教室は、池田洋子先生のご指導のもと木曜日、午前クラス・午後クラスに分かれて学習しています。朗読は、ことばを声にして伝えたい作品を聴いて下さる方に届ける、人と人とをつなぐ力だと思います。教室で学んでいる内容は基礎から始まり、音の高低、読む速度、文章の意味を考えながらの間のとり方、他にも色々ありますが、作品を読み進めていくうちに内容の奥深さを常に感じ、又新しい作品に出会える喜びもあります。それぞれが持っている個性を大切に情熱をかたむけて指導して下さる先生のお姿には、いつも感謝しております。

9月には一番大きな行事でもある学習発表会を行なっておりましたが、今年度はサンパール荒川の大規模な改修工事の為、会場をお借りする事が出来ず発表会を休ませていただきました。教室を離れ作者を訪ねる文学資料館などの日帰り研修も行っています。

昨年度より自主トレーニングの場として「なごみの会」という小さな朗読会も始めました。自分で読みたい作品を選び先生に指導していただいてから発表します。自由参加で限られた時間ですが仲間の朗読を聴くのも良い学習になります。「継続は力なり」のことばのように年齢に関係なく、心身共に健康で楽しい仲間がいる教室、いつ迄も長く続くことを願っています。

(午前クラス代表 辻原 貞子)



— 「マイナンバー制度」が始まります—

荒川区報8月1日No.1529号に掲載されましたので皆様もご覧になったと思います。この制度について調べてみました。

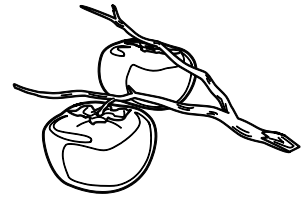
- ① **マイナンバーとはなんだろう？** 日本で住民登録をしている人（外国人も含む）すべての人、一人ひとりに割り振られ通知される12桁の番号です。この番号は生涯変わりません。
- ② **自分の番号はどうしてわかるのでしょうか？** 平成27年10月から、荒川区から現在住民票のあるところへ世帯毎にまとめて「通知書とカードの申請書」が郵送されて来ます。これで確認できます。これを紛失すると再発行は煩雑になります。個人番号カードの申請は任意です。
- ③ **当面どんな時に使うのでしょうか？** 個人番号を申請し交付されるのは、平成28年1月からです。当面は、税の手続きや、医療保険、雇用保険等の社会保障関係から利用が始まります。 (広報部)

1945年7月28日、青森市が大空襲にあいました。焼夷弾にて市街地の90%が焼失。当時、私は女学校二年生でした。私は青森市より30km位離れた浅虫温泉で育ちましたので、青森湾の対岸でした。始め焼夷弾って花火よりきれいだと思います、そんな不遜な考えを恥じました。もちろん学校も焼失。担任の成田先生もご息子共に亡くなりました。

ご息は中学校で兄の学友でした。女学校全体でも24名位亡くなり、私の家の斜向かいの家に昼、爆弾が落とされまして、一軒ぶっとんで大きな穴があき、こわい思いを致しました。あの時青森ってどうしてこんな目に遭ったのか、今でも全然わかりません。

その後の食糧難などなど、戦争って二度と嫌だ、思い出したくない、と常日頃思っ暮らして参りました。

(39 班 後藤 王子)



《 この日も広島は良く晴れていた 》

9月14日、夏の暑さの名残はあるが、広島は空は青く澄み渡っていた。私は初めて広島を訪ねた。今年は戦後70年、広島人は「被ばく70年」と言うそうだ。矢張りこの日に対する想いは、広島以外に住む人とは違うようだ。

今回の旅行の目的は、原爆ドームと平和記念資料館を見学することだ。原爆死没者慰霊碑の前では多くの人が手を合わせていた。

私は幸運な事に“ピースボランティア”の品川さんに出会え、ご自身の体験や資料館の沢山の展示品の説明を聞くことが出来た。1時間の約束が2時間に及び、濃密で貴重なひと時となった。資料館は熱線・爆風・放射線に分類して展示され、眼を覆いたくなるような、痛ましい惨劇の爪痕が残されていた。昭和20年8月6日、原子爆弾が投下されたその当時は広島に至る所がこのような惨状だったと思われる。

資料館の窓からオレンジ色の僧衣を纏った団体が、慰霊碑の前で祈っている光景を目にした。タイの方だろうか。原爆搭載機B29 エノラ・ゲイは機長の母親の名前であり、爆弾のニックネームが「リトル・ボーイ」と呼ばれていた事を知り、広島が焦土と化し、犠牲の甚大との違和感があった。

原爆投下を命じたトルーマン大統領の孫ダニエル氏は3年前に広島を訪れ、それ以後は核兵器廃絶の活動をしているそうだ。

広島を発信地として核の反対・戦争反対の運動が世界中に広がり平和な世界になることを改めて祈りました。

(9 班 井口和子)

《 写真教室 》

戸叶先生をお迎えして新設した写真教室は4年目になりました。今年度は男性19名、女性13名のメンバーです。先生の写真仲間の小野田先生が参入され、撮影時には同行して色々のご指導して下さいます。教室では5班に分かれて活動しています。班ごとに班長さんを選出し、相談したり連絡網や野外活動がスムーズに行く様に皆で協力しています。特に教室代表の細田さんには、きめ細かな配慮をして頂いています。

教室では写真上達が主な目的なのは当然ですが皆さん多趣味で、写真も撮影だけでなくメカに関心が有る方、パソコンに精通した方、書や絵、手芸、釣り等々、多彩な特技を持っていて驚くばかりです。

カメラはコンパクト、一眼レフ、ミラーレス一眼があります。カメラによって仕様が異なるので使い方を覚えるのがひと苦勞ですが、同じメーカーのカメラを持っている方に聞いて教わっています。

授業は月2回です。1回は撮影に出かけ1回は教室での学習です。教室では撮影した作品のデータをUSBにコピーして持参し、それをプロジェクターに投影して学習します。プリントにし持参する方もいます。撮影する場所が同じでも其々構図も異なるし被写体も様々です。何を被写体として選ぶのか、光や背景をどうするのか大変勉強になります。スナップ撮影で動きのある物等の作品は刺激を受けます。



今年度は旧古河庭園、小石川植物園、入谷の朝顔祭り、不忍池に撮影に出かけました。先生からのご指導で撮影の基本は、ブレ無い写真を撮る事、良い被写体を見つけたら1枚だけでなく光の具合を見たり背景に注意しながら前後左右に動いたり、時には上下にカメラを動かして撮る様にとの事ですが、中々思い通りにいきません。行動中に会話する中でヒントや情報を得る事もあります。今、10月の学園祭に向けて作品作製に取り組んでいます。これからも多くの人との繋がりを大切にすると共に楽しく学びたいと思います。

(写真教室 伊ヶ崎 元子)

10月の行事予定

28～30日 (水木金)	<p style="text-align: center;">秋の研修旅行</p> <p style="text-align: center;">錦秋の裏磐梯と岳温泉の旅:「陽日の郷あづま館」宿泊 Tel. 0243-24-2211</p>
-----------------	---



10月 23～25日 (金土日)	学 園 祭
	展示：①23日/13時半～17時、②24日/9時～17時、 ③ 25日/9時～15時まで ※お茶席：24日/10時～16時(受付は14時まで) 会場：ムーブ町屋 3階・4階

学園祭設営等に関するの注意点

- 22日(木) 学園祭前日 午後2時～4時30分 搬入可能。(4階へ)
- 23日(金) 各教室作品の展示準備は、午前9時30分～11時30分。
その後、華道教室の生花を展示。
午後1時より学園祭「開会式」。会場：3階 ムーブホール。
- 24日(土) お茶席は24日のみ。
- 25日(日) 午後3時より「閉会式」。会場：3階 ムーブホール。終了後、片付け。

※ムーブ町屋の方が展示のお手伝いをして下さいます。高い場所や力仕事はお願いして下さい。くれぐれもケガのないように、よろしくお願い致します。

◆◆◆◆◆ 学 園 日 誌 (9月) ◆◆◆◆◆

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 2日 常任理事会・役員会
(学園祭他・お茶席券発売開始) | 18日 学園祭ポスター掲示依頼
(荒川都電営業所にて) |
| 2日 台湾より40名(授業参観に) | 24日 広報委員会 |
| 11日 合同講義打合せ(ムーブ町屋) | 30日 合同講義(秋のコンサート) |
| 12日 学園祭打合せ(ムーブ町屋) | 30日 シルバーだより304号作成 |

※事務局だより※

① 11月の公開教室のお知らせ

11月に限り各教室の授業をどなたでも見学できます。来年度の申込の参考になさってください。

② 「楽しいウォーキング・ジョギングの集い」について

期日：11月7日(土) 場所：都立舎人公園

参加費：400円(当日集金) 定員：30名

※申込み方法等、詳細は募集案内参照のこと

事務所 TEL3801-5740 FAX3801-5691

(ホームページ) <http://www.arakawa-silver.com/>

(mail アドレス) arakawa-silver@tcn-catv.ne.jp



室長 田原